200400706A

別添１

厚生労働科学研究費補助金

免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業

免疫アレルギー疾患予防・治療研究に係わる企画及び評価に関する研究

平成１６年度　総括研究報告書

主任研究者　秋山　一男

平成１７年（２００５）年３月

別添２

目　次

総括研究報告

免疫アレルギー疾患予防・治療研究に係わる企画及び評価に関する研究
秋山　一男

別添３

厚生労働科学研究費補助金（免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業）
総括研究報告書

免疫アレルギー疾患予防・治療研究に係る企画及び評価に関する研究

主任研究者　秋山一男　国立病院機構相模原病院臨床研究センター長

研究要旨
免疫アレルギー疾患予防・治療研究の企画・評価等を免疫・アレルギーの専門家による評価委員会の指導のもと、平成１６年度公募新規研究課題の事前評価実施のために、研究協力者として評価小委員を委嘱し評価小委員会を構成した。評価小委員会において新規課題に関する一次評価を経た後、評価委員会において免疫アレルギー疾患予防・治療研究に係る企画及び評価につき適正かつ円滑な実施を図るべく事務局機能を果たした。平成１６年度に実施された厚生労働科学研究の成果の中間・事後評価及び広く情報発信するために年度末の報告会の開催、研究報告書作成及び終了課題について国民への情報発信としてのカラーパンフレットの作成配布に加えて、本研究事業の中で構築されたインターネットを活用した全方位的リウマチ・アレルギー疾患関連情報を提供するシステムとしての「リウマチ・アレルギー情報センター」（URL アドレス：http//www.allergy.go.jp）における厚生労働科学研究関連研究成果の情報提供を行った。

分担研究者　谷口正実、當間重人、
長谷川眞紀
国立病院機構相模原病院臨床研究センター

A. 研究目的

厚生労働科学研究費補助金“免疫・アレルギー疾患”研究の分野において諸外国に比肩しうる研究を実施するためには、適切な課題の設定、最適な研究者の選考、公正な研究費の配分が必要であり、さらに厳密な研究成果の評価が必要不可欠である。そのためにも免疫・アレルギー研究の専門家からなる評価委員会において適正かつ厳正な評価を行う必要がある。さらに、厚生労働科学研究において国民の税金による政府資金が的確に執行されている状況を一般国民に理解しやすい方法で情報公開すべくカラーパンフレット作成やインターネット活用による情報公開を試みることは、本研究事業が、国民に広く理解され受け入れられ支持されるためにも重要である。本研究班は新規公募課題の事前評価のため適切な評価小委員の選定を行い、厳正な評価を依頼し事前評価委員会での審議に付すとともに、厳正な中間事後評価を実施すべく紙面評価・口頭発表評価を中間事後評価委員会に付託すべく適切な事務局業務を果たすことを目的とする。

B. 研究方法

新規課題公募に対する事前評価においては、事前評価委員会のもと、専門家委員及び行政側委員からなる評価小委員会を立ち上げ、応募課題についての第１次審査を実施し、その結果を専門家委員及び行政側委員からなる事前評価委員会において第２次

審査を実施した。中間・事後評価においては、年度末の継続申請書に対する書面評価と評価報告会における口頭発表に対する評価を併せて中間・事後評価委員会でその継続の可否を審議した。研究成果の情報発信としては、各年度の研究成果報告書の年度末の刊行と３年間の終了課題については一般国民向けのカラーパンフレットの作成刊行を行った。さらに、日本予防医学協会（平成１４年度から）による研究推進事業としての外国人招聘、海外派遣、若手リサーチレジデントの選考にも関与するとともに、本研究推進事業の一環である日本予防医学協会主催による医療関係者及び一般市民を対象としたリウマチ・アレルギーシンポジウムのテーマ設定・開催にも関与した。

（倫理面への配慮）

本研究事業を実施するに当たっては、各課題研究計画書、申請書において倫理面への配慮に関する記載を義務づけており、各研究実施に当たっては、対象患者からの同意取得を必要とし、動物実験においては、動物愛護の原則に則っての特段の配慮を義務づけている。

C. 結果

本年度の新規課題募集は、１０題であり、リウマチ・アレルギーの各分野（リウマチ・膠原病、小児喘息、成人喘息、アトピー性皮膚炎、花粉症、食物アレルギー）及び若干名の基礎研究専門家に対して研究協力者として評価小委員を委嘱し、平成 16 年度新規公募課題の事前評価を行う評価小委員会を組織した。

本年度（平成 16 年度）には、新規課題が１０課題、継続課題２６課題と合計３６課題の研究が遂行され、平成 16 年度の中間事後評価は、継続申請書による書面評価とともに平成 17 年 1 月 31 日、2 月 1 日の両日に開催された研究報告会の口頭発表評価を併せた評価委員会により実施された。また本研究推進事業として財団法人日本予防医学協会主催によるリウマチ・アレルギーシンポジウムが平成 17 年 2 月 11 日に開催された。本年度の研究成果の情報発信として全研究課題についての主任研究者による総括報告及び分担研究者による研究報告をまとめた最終報告書の刊行と本年度を最終年度として研究が終了した課題についての一般国民向けのカラーパンフレットを作成中である。

D. 考察

本研究事業では、関節リウマチ及びアレルギー疾患として気管支喘息、アトピー性皮膚炎、花粉症、食物アレルギー、さらには基礎免疫アレルギー学をも含めた重点的かつ包括的免疫アレルギー疾患研究を展開した。本事業の目的に合致した的確な研究課題を採択するための事前評価を行うために事前評価委員会が組織され、その下に当該分野の専門家による評価小委員会を立ち上げ、厳密な専門的評価を行うとともに行政職による行政的評価を加えて事前評価委員会へ選考資料を提出し、新規課題の採択が行われた。また、中間・事後評価委員会においては、年度末における中間・事後評価を行い、継続の可否等を厳格に決定した。このような評価体制を支えるべく事務局業務が所轄課である疾病対策課との緊密な連携のもと実施されてきた。

西欧先進諸国においては、基礎から臨床まで幅広く免疫アレルギー疾患を研究・診療する大規模な総合研究・診療施設が存在し各国における免疫アレルギー研究をリードして多くの業績を挙げている。一方我が国においては、免疫アレルギー分野においては、文部科学省管轄の理化学研究所が基礎免疫学に関する重点施設として開設されたが、厚生労働省管轄では、ナショナルセ

ンターが存在しないため、臨床から基礎までの総合的な免疫アレルギー研究・診療施設は平成１２年から発足した国立相模原病院臨床研究センターが準国立センター施設として稼働し始めたばかりである。今後西欧先進諸国の基礎から臨床までを包括的に研究する免疫アレルギー総合研究施設の充実を図ることが重要である。その礎としての本研究事業を成功させるためにも適切かつガラス張りの評価体制の確立が重要でありかつ本研究課題の特色でもある。

また、本研究事業により開発された、あるいは明らかになった成果の検証をすることは本研究事業の信頼性の向上のためにも重要なことである。そのためにも質の高い臨床研究の基盤整備として全国に張り巡らされた多数の臨床症例を有する国立病院機構政策医療ﾈｯﾄﾜｰｸを活用する臨床研究の実施は本研究事業で得られた成果の検証のためにも重要かつ不可欠の課題である。

E. 結論

免疫・アレルギー疾患研究の分野において質の高い研究を実施するためには、適切な課題の設定、最適な研究者の選考、公正な研究費の配分が必要である。さらに中間事後評価に際しては、厳密な研究成果の評価が必要不可欠である。そのためにも免疫・アレルギー研究の専門家からなる評価委員会において適正かつ厳正な評価を行う必要がある。これらを実践するために、昨年と同様中間事後評価会議を報告会開催時に開催することで、書面評価とともに口頭発表に対する評価を重視したことにより、これまで以上に適正かつ厳正な評価が実施された。また終了課題について国民への情報発信としてのカラーパンフレットの作成配布に加えて、本研究事業の中で構築されたインターネットを活用した全方位的リウマチ・アレルギー疾患関連情報を提供するシステムとしての「リウマチ・アレルギー情報センター」（URL アドレス：http//www.allergy.go.jp）における厚生労働科学研究関連研究成果の情報提供を行った。

F. 研究発表

1. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金「免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業」研究報告書刊行　H17.3
2. 平成１５ 年度カラーパンフレット刊行 H15年度版
3. 平成16年度研究業績報告会　平成17年1月31日、2月1日 KKR HOTEL TOKYO　東京
4. リウマチ・アレルギーシンポジウム　アレルギー部門 H17.2.11 午前.、リウマチ部門 H17.2.11 午後.　津田ホール 東京

G. 知的所有権取得状況

1. 特許取得　無
2. 実用新案登録　無
3. その他　無

Classic DFS. 1.5 mm for 1-15 sheets 408
www.bindomatic.com